

善知安方忠義傳

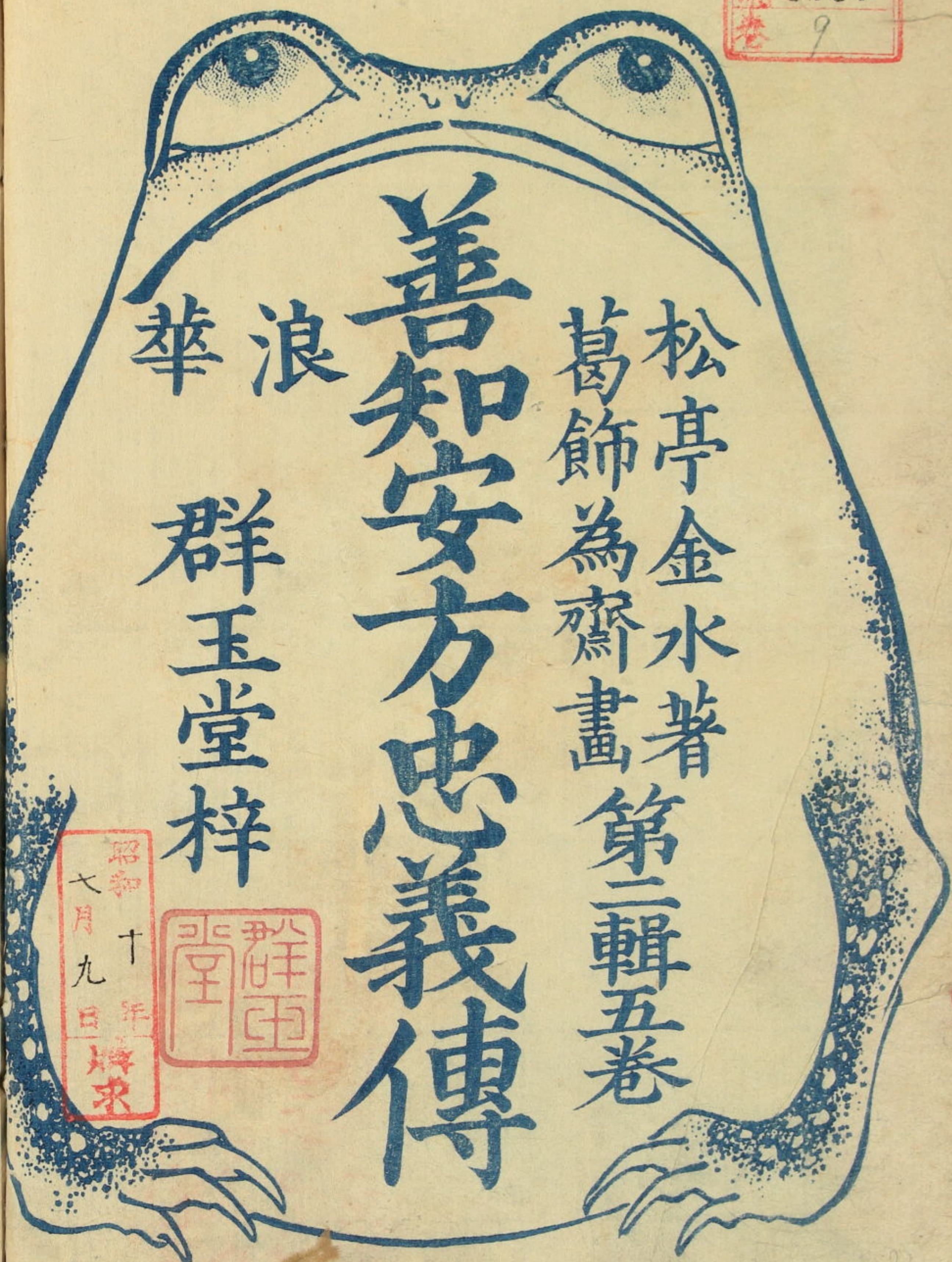
一編

壹

13
3237
9



門 へ 13
3237
9



松亭金水著
葛飾為齋畫
第二輯五卷

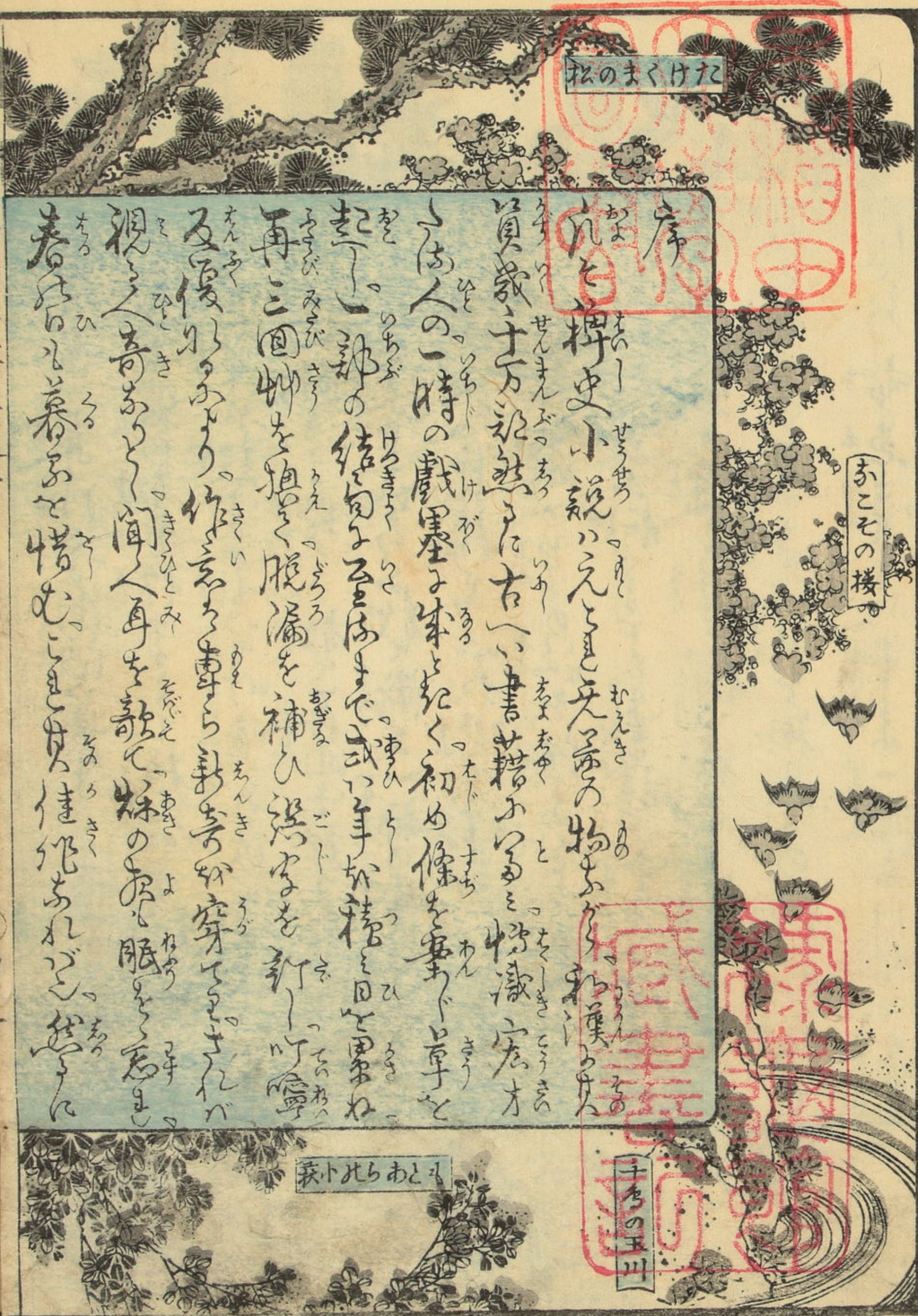
善知安方中心義傳

浪華
群玉堂梓



昭和十年七月九日
群玉堂

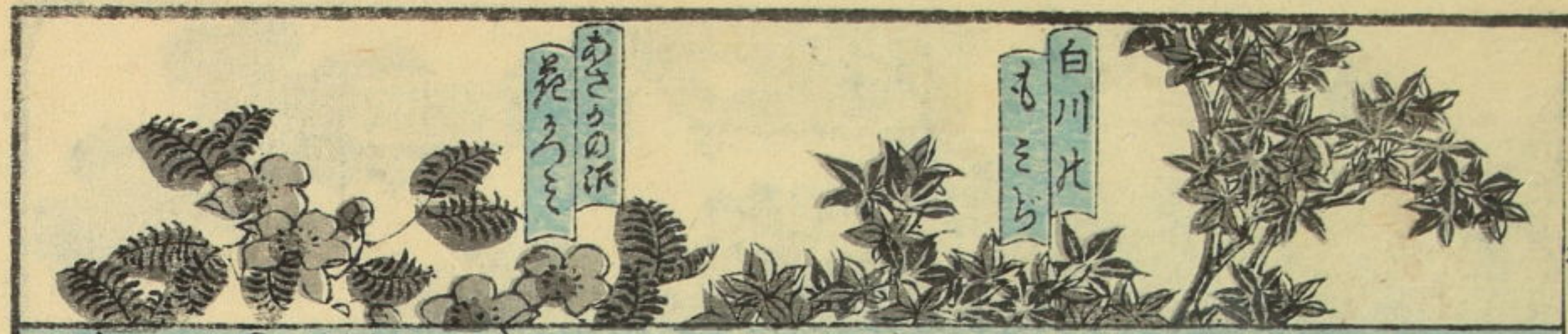
松のまくけた



序
此の傳史小説の元とて是の物語の物も多し
負裁十万余に然るに古の書籍に於ては物澤宏才
一人の一時の戲墨に止りて初め條を要すと草子と
起し其の結句を以て或は年か積りて目と用ゐね
再三回抄を擧ぐ脱漏を補ひ誤字を訂し竹屋
及後にもあり作意を専ら新書に穿てたるは
視之奇あり聞人耳を聳て採のおも眼を驚まし
春のひも春を惜むにせむは佳作あれども然るに

ふこそこの様

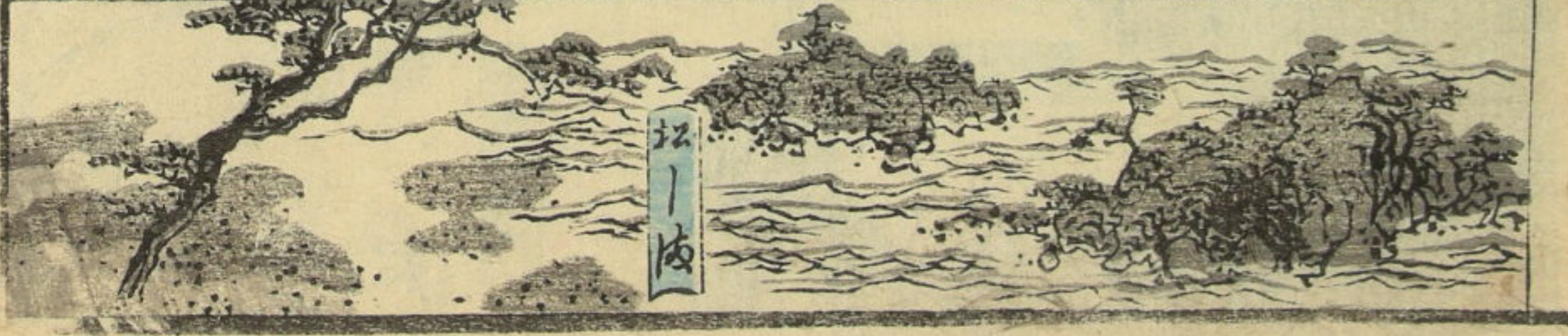
千名玉川



白川水

あさりの水

近頃余が筆跡は字固酒の素よりめて元智類才の
 此も能く物のあを作するて極えの才類子類と求
 免適の筆跡をばよめて竹園の筆跡をばよめて
 米穂の筆跡をばよめて教を再四す教をばよめて
 乃早れをばよめて教を再四す教をばよめて
 佳作といふは揚るるや況て佳作といふは揚るる
 此の程をばよめて教を再四す教をばよめて
 乃早れをばよめて教を再四す教をばよめて
 佳作といふは揚るるや況て佳作といふは揚るる
 此の程をばよめて教を再四す教をばよめて
 乃早れをばよめて教を再四す教をばよめて



松一海



そとごま

つゆのそと

勸諭謙微惡の類意の外をばよめて
 思ひのあをりて出来るといふは極えの才類
 自傳の使傳好ん
 一時嘉永二年己酉冬十月忍るる
 寓居よばて

松平深父人筆蹟

松平
深父



高純ハ歳
僅に十六歳
万夫不當の勇
あゝ軍略
兵法を胸憶小
收む以あつらふ
此人前伊豫掾
純友ガ子ナリ

高資ハ弟子
金井荷助
定友

重太郎
高純
西條高
資ガ
子ト
喚
樹小



馬賊
此一個の
豪傑
ナリ



惻隱の心
 仁の端なり
 正祿慈善の
 者みれども
 小人小て道を
 北雞晨すの禍小なり
 嗟時あるま

越後新瀉の
 今長者
 蟹原屋
 正祿
 新瀉の
 莊官浦平



恒の産まぬの恒の
 老態色情小
 竟小故郷を逐電は
 惡として為さるる
 積惡道と難しと
 再敢かゝる身を
 亡はと天誅と
 謂つる

陸奥の
 醫師
 老態
 髪を生
 越後國
 遍登は

西條
 高資が
 女児
 糸遊



須弥より高き主の恩
忽地忘て其渾家小幡を

○正禄が
後匹
深雪

美貌を恃て
身を慎まば
奸夫をひきよ
娯樂を極め
婦女第一の
禁を犯さ
且その継子小
邪慳小
人の譏を顧ぞ
氣隨小
因て
家を亂し
竟小石を
市小曝



五逆の罪も且く隠れん
被ひるん小似言て天
定まらん人小勝負を
その終を克せんや

○今長者が
老僕
武久助

○安方が一子千代童
正禄が養ひ子と
千代松と號す

ゆびさめぬ
おとち
みねあは
まては
いっしよおやめ

後妻店人
松高

○正禄が
女見
吳竹

善知安方忠義傳第二輯全部五卷總標目

卷第一回

西條高資信州潮平小潛む
知縣使者を立て糸遊を娶んとす

壹第二回

知縣荒磯西條父子を怒む
潮の山中三士狼を斬す

卷第三回

鵬を討て重太郎禍を醸す
走卒を討て高資知縣へ赴く

貳第四回

勇を奮て重太郎馬賊と戦ふ
知縣の奸謀英雄を陥る

卷第五回

荷助糸遊を將て上野へ走す
高純睡中小歡樂を夢ゆ

三第六回

師恩を報んと里見知縣を開き
老命を捨て高資重太郎を走す

卷第七回

今長者正祿絲女深雪を娶ふ
高野非事理千代童と今長者小託す

四第八回

遊崎小糸遊危難小遭ふ
情慾を逞しく娼婦奸夫を討く

卷第九回

糸遊勾引さるゝ鴉足の郷小至は
正祿浦平圖らるゝ老熊を捕ふ

五第十回

火筋を飛して千代松胡蝶を貫く
千代松老熊を討て孝養小備ふ

通計十回二十條總標目畢

○醒醒齋山東翁京傳の博學強記をてさあぐの古書を涉獵平生小戲墨と
 りて樂みとして著しを所の書ども多かる中小の善知物語の如の翁陸奥人
 の口碑小残りて故事叙史がましく十符の管薦七ふと三ふとをりて
 けり帝れりふかきつけり水ぶ記のあまを流りてことごとくひしあぐまの
 物語ぶとありぬ序言小も記されしその肺肝より練せし妙業なれば
 當時のいと愛されりゆりてあされりるも儂まは四十餘年の昔とありぬ
 頼小后編の著述もつるべきとつるあるゆりや彼翁も辞世ねと猶櫻木の
 彫板も朽む年々小北咲をぬりてつれ嗣編のつるを人と人もひしと版
 元なる書肆も思ふの餘り余にその編を綴れとゆり元來不才に
 ちてかの佳作の後を嗣べき器ふりぬと自知りて否めと許さば是非なす
 を酉の年竟の草案の功と畢ぬ

金水再識

善知安方忠義傳第二輯卷之一

東都

松亭金水編次

緑龜館文庫

第二回

西條高資信州潮平小潜む
 知縣使者とて系遊と娶んをひ

皇國の六拾六劫寒

そま天地の覆裁せる萬邦異域のつらひをひとど
 暑節と失いど深山幽谷の隈とま月日の照りぬとゆりとも初と影の影と
 雲泥万里の差ひありもつ初小住りの平生小膏梁の食小脆を絞るを
 りて身小纏ひ七珍とりて翫弄とてまこと訓してことと驕奢とをりて或の
 仲春の初茄子雪中の箒人散て珍とせば狐裘の藝の服と虎豹
 蠟虎の茵蓐の平人ども用由なるべし邪の住居の表裏たる春を

まば夏冬野菜の出来初穂米麥さへも贈るのり。諺のいふ藝の才を助くる
の能ありと結句安ら小世と送り。侍とあり小十年磨りの春秋と終る極小
まごいといひけるるり。女兒糸拵の十八歳まで容貌のさう小ゆいふ栄も人
小勝り。織計より織紡までて女子の業をゆめごとつるり。さうさう
拙みり。父が平生と弟子を小教のりを見て自ら。太刀技術もひいて。鄙
ゆの稀る處あるまば。父の豪富彼処の莊官便と索めて縁をこひひひ
の鮮るる。ねど高資のり。許さひ。元小あまて朝夕の薪炊のり。さ
ど賄いせ老の樂とさう小なり。弟重太郎の年小仙お。その丈立尺有除わん。
骨逞まう。眼中尖く柔術。劍術のりも更なり。常小弓射るること好む。
いさうの暇あま。弓矢携へて山へゆ。猪猿狐狸のさひ。或ひい山鳥雉子を
ど。その時々の獲物と食て。惡不巖石とをもると。更小平地と流がゆく。或ち

高さ樹小攀登り。足と空めて自在とする。いと樹傍の摩叱羅小勢。弟ら。
さ。まば高資が弟子をその凡るる。不為とて。天狗童子と異名をる。
舌と捲て。怒まぬのり。そま古流小のりあり。朱小交ま。赤くる。墨小
をづけの黒くたる。とゆあま。二藝小傑出のり。のありと。多し。群多く。是。藝家
この尋常の人情ある。況て重太郎の師と恃む高資が愛子といひ人の及ぬ
業さ。さるま。置くと。ま。小称罵。神人。と。信と。その名。近。小
隠さる。け。ま。吾。ゆ。と。門下小進。と。武。た。と。勵む。跡。と。の。り。と。小。於。て。高
資。の。重。太。郎。が。性。質。と。心。程。小。敏。び。と。一。時。傍。へ。近。づ。け。て。汝。が。力。量。武。藝。の。り。と。
年小仙。げ。る。死。大。丈。夫。の。り。さ。る。り。ゆ。平。生。と。あり。只。音。感。傲。の。他。の。り。頻。て。壯
年小仙。さ。る。る。家。と。興。し。身。と。も。そ。先。祖。の。名。さ。輝。と。く。未。特。母。敷。の。歡。つ。し。り。
る。と。知。と。抜。さ。入。小。敵。と。る。の。り。と。と。匹。夫。の。勇。と。み。汝。が。今。の。拳。動。る。り。あ。の。そ

定まる妻も有り。故小家支の締りく平生と五言の歎く不きりるる男女
 の縁のゆふ小任せぬのゆて。車長短さむの障り多しといへば。その
 近郷小育つ處女。郡俚猥雜に。扱小も惚い。且知縣の令臺と稱して。さ者
 自る。この家の令娘。糸拵。市の容。伐の元より立奉動。まご女功も人並る。
 ぶと人の。小誘ても。安。この全。先生が常の教の。能由。悉と令娘。性が
 とニッ。あ。り。いと慕りく。あ。り。願。この令娘。して。知縣へ。誘り。揚る
 の。あ。る。在下。下。牙。小。於。ても。こ。よ。る。死。公。私。の。僥。倖。あり。い。つ。小。許。し。あ。ら。べ。さ
 や。と。顔。と。見。借。て。向。か。る。當。下。高。資。の。額。つ。ま。て。何。ゆ。ら。と。存。せ。小。不。束。る。る
 女。見。の。と。逐。一。命。ハ。畏。こ。ぬ。然。る。が。門。野。ゆ。世。俗。が。常。の。誘。小。も。牛。ハ。牛。は。ま
 馬。ハ。ま。馬。連。と。や。う。ん。い。ひ。み。あり。在下。先。年。と。來。り。僥。倖。あり。て。師。と。恃。ま。ま。と
 い。と。未。熟。る。藝。を。教。へ。飢。渴。の。患。ハ。凌。ぐ。と。い。ども。不。石。住。の。浪。人。と。そ。の。素。性。で。小

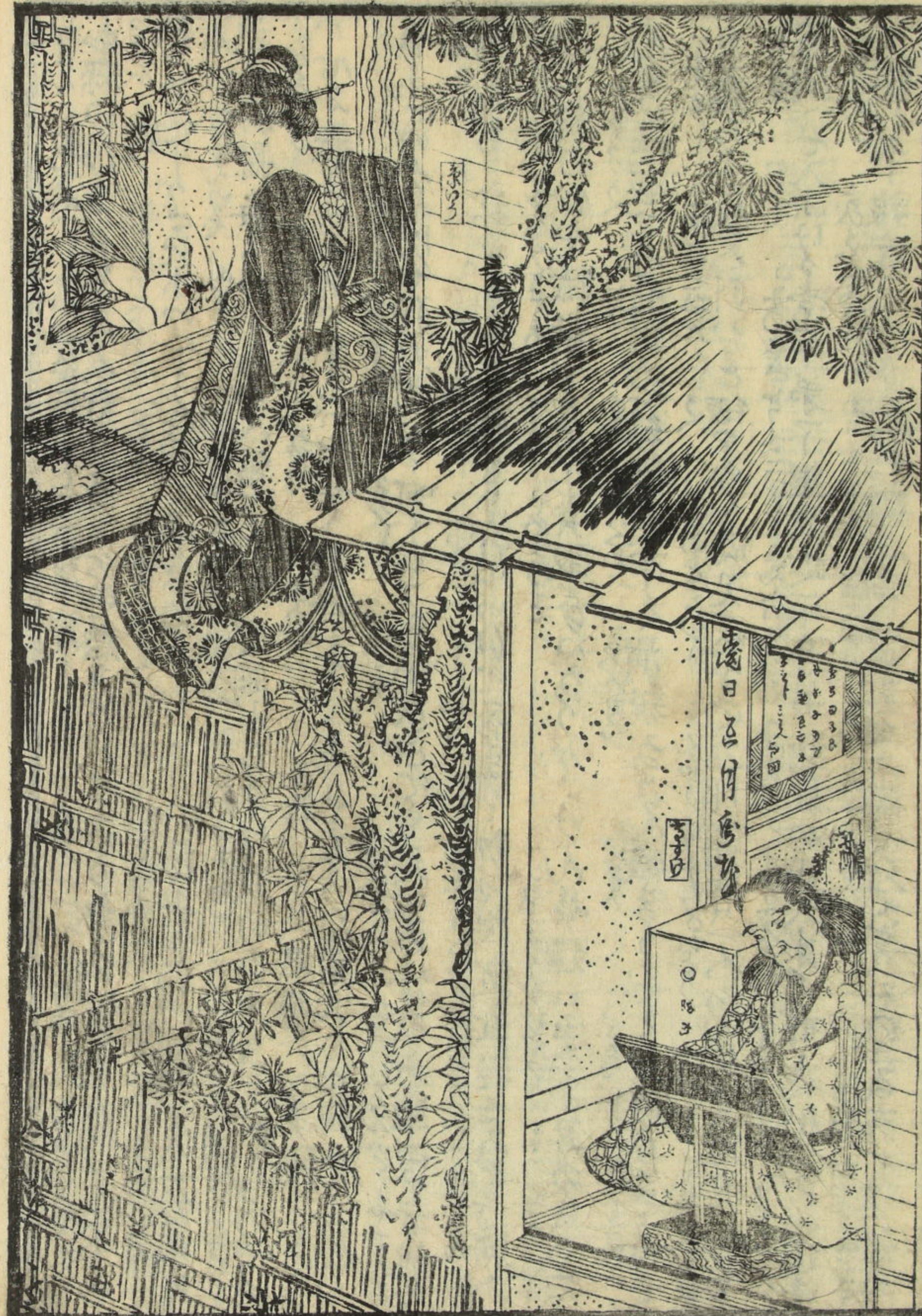
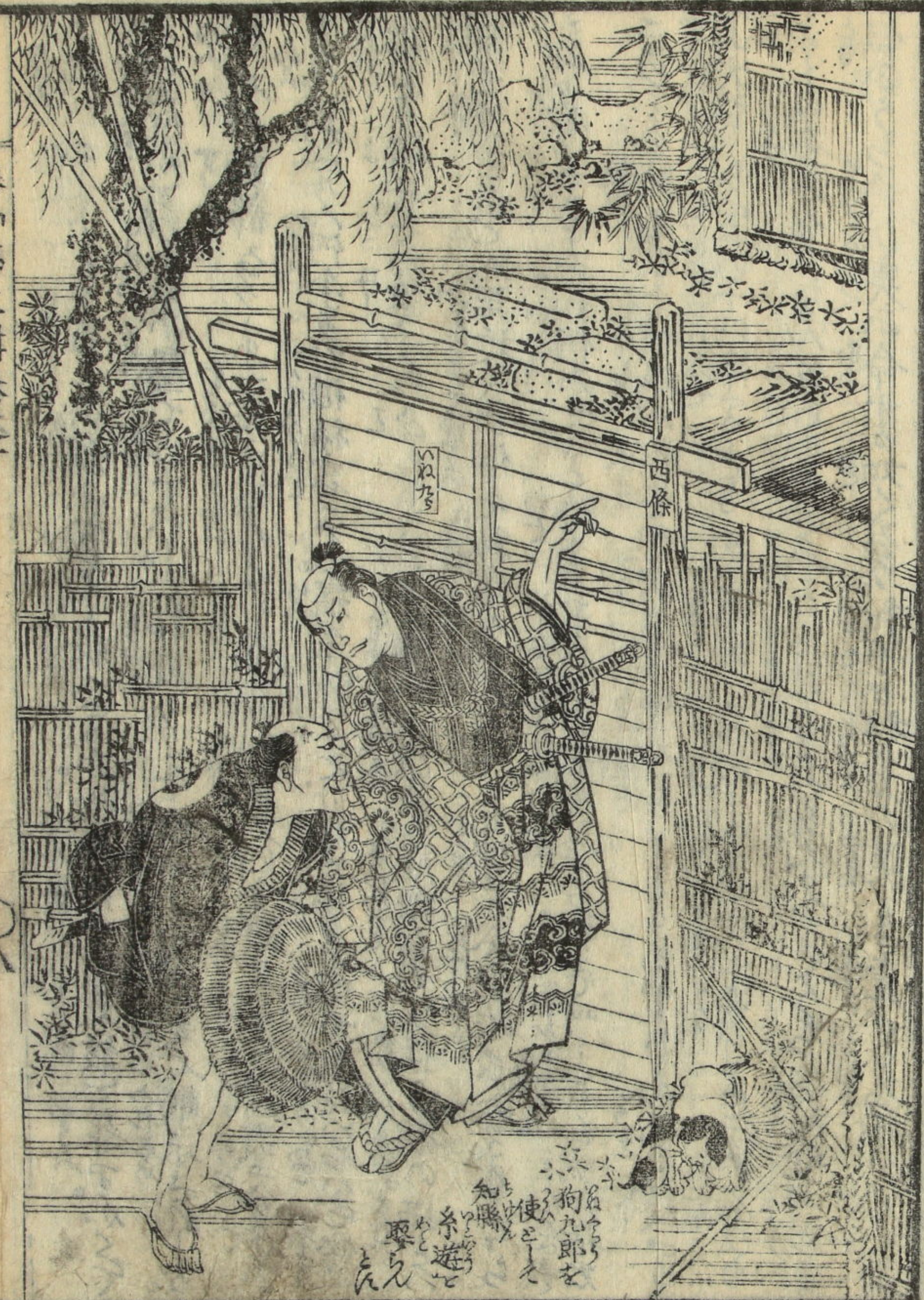
定。る。あ。る。下。下。の。女。見。と。り。知。縣。の。令。臺。の。合。一。と。い。ひ。の。美。の。官。許
 さ。せ。あ。る。在。下。聊。栄。利。を。謀。ま。ま。今。足。下。甘。言。小。羈。さ。ま。と。兼。引。と。も。若。輩。の
 重。太。郎。女。見。も。俱。小。肯。ん。其。故。の。今。言。と。ぞ。く。鉤。合。ね。と。は。て。る。昔。在。下
 世。の。の。祕。と。得。て。武。家。小。仕。え。の。その。名。跡。と。り。て。武。士。の。列。の。在。と。い。ひ。る。る。
 畢。竟。土。民。小。猶。劣。る。り。が。牙。の。分。と。う。ち。忘。ま。ま。や。望。ま。る。と。も。争。の。命。小。使。ひ
 面。持。と。て。歡。び。と。扇。笏。小。さ。つ。て。ま。ま。の。あ。る。卑。下。の。理。あ。る。赴。小。使。て。理。あ。る。
 昔。は。え。一。名。跡。と。り。て。今。武。士。の。列。小。あ。る。が。知。縣。と。奚。ぞ。尊。卑。あ。る。ん。や。能。令
 浪。人。の。志。あ。る。と。も。その。時。の。幸。不。幸。あり。て。仕。官。さ。る。牙。の。常。の。ま。ま。の。御。恥。と。こ。小。も
 あ。る。と。土。民。小。劣。る。と。宣。あ。る。大。小。と。る。言。葉。あり。近。曾。足。下。等。父。子。の。人。と。世。小。並
 び。る。と。英。雄。と。そ。の。の。小。及。む。び。國。中。奉。て。そ。の。德。と。稱。せ。ま。る。の。も。あ。る。い。

のて名もゐる土民等と日と同行して論をこころ先生の言葉も似けるその
 兎もあま角のあま令郎も近曾脊丈伸てや大人小ありあひ殊小武術小勝と
 あり未恃母敷武夫やと吾もよもあまの況て足下が心裡の歡びごととなり
 あり。いづも後ら家名と興い月ともまのん。曇らぬ鏡でる如く鏡ひらる
 りのる。近來相馬の戦ひより世間静謐小治して四海泰平の化小浴を九を
 武とりて家と興い月とまの願ふの戦ふの時の功名を彰す小迅速けれど
 斯のめさの泰平のいさう迂遠とあり僕が主人荒破の年こそ若けは父祖代
 の職するさりとて京家と治め玉司の内の出頭小の慇あるの教多あり。然れ
 這回の縁をこぞ惜ひあひ親と縁者何もさありと吹挙して故人の難いとひ遺
 する儼侍並び到らんゆい堂と覆とさぬ。卑下いあひの損あり。頼と肯ひ
 あり。といと誇り小いふと。高資心小さ。渠粹と左右小よせ慈むより誘て

この縁縁と信がんとして曾てさ荒破のその性倅奸邪背れてその外か縣の高
 と小居り己が言小合のぬりの威とりて宛小陥り我侘无たの挙動ハ平
 生小見せたる処渠壁へ種茶張儀が辨を震ひて誘ふとも只一人の女兒をて
 不良の人の妻とせんや流りさる西の知縣ゆて吾月祝の地小居るといふ
 処も心も叮嚀と尽してとととを答む小ありとむて荒尔うち笑ひ命の振とく
 其理のありる。兎ても角ても肯ひか。かくのこころ長と茂小さ。无れありと
 憎とあひあつたれども命小はひ糸柱と比館へ来らすその時二年あらずて吾父
 小此土地小信が死ののちもあまのひまの女兒糸柱の人の呼あは及ひ
 ありのこままゆと正さまひ拾縁の美と標しあそのるを疑さま小奉るひ
 ほど渠の幼稚ゆて母とあひ在下その流流と是と注と家とあまを不
 と推へ廻てこの不人あて不國の人の恵と小月日と送て患苦の中小合とるほど。

男の身とて育ぬまじり自らりも存ず。そのまゝ貧苦およく別て下さある御業の
 人の物とされれど糸竹のたのしみもさうある。方一首でも海をさるべし抱まじり仲
 知縣まじりの令臺とあるんりぢひのまゝと侍をそと一旦の栄利小愛且と
 命の重きより法て比館へあまきこと一年ありてえ限らば縁と断て吾方へ戻し
 めみの目あり。抱まじり五世の父子世るへちの面目ありてこの所不居まんや。こゝに
 清のまじり情とまじり廻を小女兒の今年十八歳とや生むのついでまじり日毎小舎
 弟の弱冠まじりの身けまじり万ふも在下の眼と竊とてまじり會男のまじりとも言
 まじり若さる筋のありまじりもせまじりも無越大まじりめて忽地知縣の怒小觸まじり
 不と逆まじりまじり三つの秘法あり。まじり重太郎の知まじりほまじりまじり総角まじりありまじり
 まじり腕小筋力まじりあまじりて武林まじり之年齢まじりあるまじりまじりまじりまじりまじり
 在まじり眼不かるまじりな毎嚴敷教滅まじりまじりまじりまじり若輩まじりまじり慮まじりまじりまじり

知縣の縁者まじりまじり人自然所まじり悪と答まじりまじりまじりまじりまじりまじり
 勢ひにまじりまじりまじり人斯て不食のまじりまじりまじり縁者まじりまじり私と公の法成
 執る。知縣争り免しありまじり當下在下安閑とまじり住居のまじりまじり此まじり障
 心小懸まじりまじりまじり何まじり命まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 僻まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 居る敵の心中秘密まじりまじり責取りまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 えまじり退飯まじりまじり其まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 荒らまじり小供人まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
 居間へまじり入まじりける。當下弟子里見近平金井荷助の兩人あり。昨夜使の使還
 て憐むまじり旅客二人も足乱離小食裂まじりまじり血小染まじりまじり死まじりまじりまじり
 其まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり



小疑いありととつて、頃小のよ、新へる小、検断終まで死骸を葬り、かくて
 その悪獸を不目小撃て出すべしと、知縣より、御中の獵夫等、觸示されしが、
 昨夜の動靜多く、小三匹の成るといふ、尚五六匹も群來るといふ、獵夫等、
 自らひがらん、何れも、被、旅客こそ、痛まはせ、と、げれと、後、と、受て、糸、
 膝より、修せ、その怪、ぬ、さ、さ、山、續、中、熊、狼、ら、の、猛、獸、の、拙、
 縁、と、人、里、近、く、徘徊、と、旅客、ら、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 まで、來、と、あ、如何、小、せん、と、怖、と、重、太郎、
 さ、の、と、怖、の、ひ、と、及、及、獅子、や、虎、ら、の、世、の、忍、も、と、の、あ、を、
 山、大、ら、と、五、四、十、四、出、と、と、と、一、奉、小、ら、ち、殺、一、生、皮、剥、て、賣、
 よ、の、金、小、ら、つ、なん、然、の、あ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 俱、小、ら、ち、笑、い、実、小、命、す、如、く、あり、和、子、が、

稱讚さ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 打、小、打、殺、一、獵、夫、等、が、鼻、を、明、せ、る、べ、し、と、と、と、と、と、と、
 て、手、柄、と、見、い、の、い、ん、や、と、い、の、小、兩、個、の、勇、こ、と、
 先、達、を、あ、め、る、る、吾、ら、あ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 高、資、一、間、と、出、その、校、計、の、无、用、と、汝、達、僅、の、勇、小、
 志、い、繁、く、人、民、の、害、と、除、く、仁、術、小、
 こと、ひ、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 勅、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 ら、苦、心、空、く、る、の、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 等、が、苦、心、空、く、る、の、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 ぐ、腕、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 父母、の、遺、體、と、傷、ふ、る、小、世、の、胡、虜、と、なる、べ、し、と、と、と、と、

思慮あるものせぬゆゑ兵書亦小敵を侮る事あることしの則これら小敵
 べ。努血氣ゆゑの早すそと説諭さまで重太郎もまゝ。両個の弟子の。その理
 重太郎の畏すぬと回答する。折る表小人の夢重太郎の在とあやしの
 して重太郎の牙を死。誰人ありやと門の走り出まばこの傍の獵夫等二人弓
 矢と携りえ重太郎より莞尔す小うち笑らる腰を屈め吾們知縣の命を
 うけ。今より山へ赴くるが。その縁ぬの箇様と。彼旅客と狼が唾ひ殺せ
 とを語り。夫小就て時日と移さば。その惡獸を狩べとの。網小よりて駭計へ
 知らせ今宵一夜の山と溪草と多ての狩出さんと。まゝ分撥して多
 知がかの狼の多く一匹二匹あらず。その風波の先の日小佐久水内の邊で。因
 司の狩倉ありゆゑ。小年奮狼五頭出て。牙を噬れと磨列卒と目かけて狂ひ
 多すと國司の内内何某ある人矢継早の名人にて。瞬間小五筋の矢を放ちて

五頭の狼。さる悉く射らまうと或ひの腰或ひの背或ひの腎をど小中まで
 一頭も斃まらぬのいり。右性左性小逃去す。その性方さるをまてと。一が
 小麻負の狼。その所へ道と来て狂ひまらぬのいり。然るまらるる
 尋常の狼小律換す。彼令首尾よく驅出まると。仕留んと。いふ。若
 手除さるまらる。狂ひて。こよる。大いなる。夫等の程も。國らまらる。
 因て吾們が。愿ひとの。い。方小。一。仕損。と。協。ぬ。時。の。傍。と。知。れ。多。子。が。弓。勢。を
 彰。て。力。あり。て。後。秘。う。ま。と。持。て。小。來。つ。る。り。と。て。重。太。郎。の。快。氣。小。肯。ん。
 ち。と。い。が。父。の。胸。を。穿。つ。ま。ま。づ。後。秘。り。が。父。小。一。應。向。て。養。ふ。べ。と。い。ひ。入。て
 父。小。向。ひ。ぬ。世。の。の。物。語。ま。ま。高。資。自。ら。ま。む。て。獵。夫。等。小。うち。射。ひ。返。回。の。の
 く。不。憶。勞。外。の。と。出。來。る。よ。と。ま。ま。小。就。て。未。熟。る。分。へ。助。と。持。む。の。云。ふ。の
 逐。一。度。ぞ。け。少。く。も。違。北。月。の。あ。ら。る。ら。び。ま。ら。る。重。太。郎。も。ま。ま。若。輩。を。て。腕。固。ら。び。

高資依然と。その跡で約束のり。かゝり違背あふらむと。重太郎とうち振さ
 そのとを伴ふまは重太郎の勇こころ。飛令地を踏ま雲と翔る神通自在の獸
 ありとも。何れど。のうらあふらむと。俱小糸らんと。腹巻騰當小月と固め二十四
 挿る矢筒と。背負重藤の弓の正中のち。日來秘藏の痣丸と。号一刀と腰小括
 へ。徐とと之也。高資のこぶの勇こころ。打拵とて。笑と。合と。今獵夫等が話
 説と。さけの尋常の狼あり。たに獸といふ。大敵あり。血乳小早まで。過す。里見
 金井の兩人。俱小住んと。縁ての契約。形小知ら。て。跡あり。遣ん三人。公を齊し。之退
 液と。さけ。い。跡。せ。畏ね。と。回。答。て。斬。獵夫等。を。先。小。多。一。山路。と。さ。て。さ。出
 たり。初て。獵夫等。の。昨日。の。下。夫。へ。觸。知。り。と。大。勢。を。拓。き。集。め。その。日。呻。時。の。比
 及。より。山。溪。と。逐。る。小。物。方。へ。道。を。隠。ま。り。ん。さ。小。其。氣。ご。か。る。い。さ。の。嚴。ま。く
 將。ま。さ。と。山。ま。く。山。へ。か。入。り。て。上。野。を。越。後。の。方。へ。逃。性。し。の。あ。ん。骨。折。損。と

い。い。え。小。尾。の。結。の。傍。あ。ん。と。に。小。散。動。の。篝。小。程。由。此。お。り。加。て。さ。処。の
 芝。生。小。田。坐。せ。り。尾。より。さ。死。里。見。近。平。金。井。荷。助。の。兩。個。由。池。あり。て。こ。小
 在。す。この。形。勢。小。望。と。失。る。い。重。太。郎。か。う。ち。對。ひ。て。と。ま。く。蕪。く。打。拵。を。さ
 ら。と。さ。く。飯。ら。ん。返。る。ぐ。遺。憾。一。符。の。夜。大。人。の。止。ま。い。あ。い。と。よ。る。死。の。柄。を
 做。さ。さ。小。惜。さ。る。あ。て。さ。と。悔。め。が。重。太。郎。の。名。ひ。て。然。ま。い。と。よ。其。言。又。と。吾。の
 悔。く。く。と。も。父。の。命。と。の。ふ。せ。ん。然。り。ま。は。山。尖。ど。の。昨。夜。ま。さ。の。宗。居。ら。る。の
 忽。ち。不。他。解。へ。道。ま。は。せ。さ。る。い。さ。の。た。に。獵。い。そ。の。様。を。察。す。の。の。と。い。へ。吾。が。あ。く
 と。知。る。備。と。と。ら。ぬ。ぬ。る。今。より。三。個。密。や。小。の。溪。間。を。廻。り。て。視。る。ん。と。い。へ
 西。四。の。竹。籠。と。ま。を。と。區。け。ま。ま。と。と。小。弓。矢。と。携。え。て。獵。夫。等。の。い。さ。の
 せ。と。樹。根。巖。角。踏。ま。た。此。方。彼。方。と。徘徊。る。ま。この。時。や。仲。秋。の。月。皓。と。こ。ち。昇
 で。天。の。一。點。の。雲。も。あ。く。山。小。の。村。の。後。と。移。り。仰。向。の。青。山。微。と。て。中。天。小。聲。え

刀を引ぬきて切て蒐まへ狼のその勢ひぬやぶまけん傍の涯へ飛上りて忽
 地不あうくと叫ひ響と兩三声のそのり里見近平の公捷さ漢子あるまば捨る
 弓と楸もあへど矢うち番ひまうくと穹絞まで切て放つその矢現ひて追ひ波
 狼が胸板へ香巻せめてまうりけまばあづり以て肺ふぐさ逆の溪へ轉と落ちてその
 まく死でげり折る吼とさつつけや遺まう四頭の狼の墓地小池あり紅の舌ん
 吐さるる三個が程むむと視てま二妻と小飛でかる勢ひ猛然とて當りかた
 尾花川萱踏断離踊を狂へ三個のりのの傍る樹と楢小とりまう小刀を打
 振まで切まうひく透あへる刺面むと眼とくをまきと猛獸の荒れ荒る勢ひ
 ろまへ左右あへる近付まきと荷助の筒小とら對ひる狼と里見小射られ中
 不平の折るまきと這回とまの一番小刺面て功を彰いんと勇氣と励まうかの狼
 が牙と噬と踊と蒐ると緯ともせびて進と近づき太刀風尖く狼の胴も改め未

塵ふるまきと勢ひ込で切つる刃の光も小狼の爪と縮め牙と平め避んとま
 まど勇士の一刀肩骨より背へうけ八寸七切裂ぬ荷助のこま一程で仕損ト
 たり。今一刀と力と究め振揚んとまう小太刀の切先樹の根へ激と切込で引
 とも動くば抜ともぬけむ頻や小焦燥て曳やとひけバ豈計らんや太刀ハ
 錐跡より五六寸残してあつと折るり。その間小狼の荒るうう小飛員とあり
 高吼しつ荷助が腸膽目うけて食ひけんとし荷助も今一生懸命。たまを伸
 て狼の耳と緊と引楸へ脅力まうせ糸ひさ傍せと拳と堅め突んとすまう五六
 寸る折ま刀物の要小まうり。抄殺さんと鼻柱ニツニツ四つ続けお小うとも
 ひむぬぬぬ。楸まう耳と振放さんと投んとやへう致すと暫時猶後より友の
 難儀と救えんとてや一頭の狼形かや。荷助が肩へお御痛うけ項と目うけや一
 啜小啜殺さんま勢ひひて脱小牙をまんとし荷助のお後と防ごるて死あ死



あり。竹の葉不熟を氏と惑りて遊食を。返田のその恩の方分ぐと報ぶる
 の。美原孫の少はあふんと口穢るも罪と。村長も畏とあり。怖と返
 物。昨夜のゆいど。獵ま等が言くと。支小二夜撲將と。尚捕獲する悪獸と。
 かの人の聲カクを獲る。獲てゆべ。返田の功。波人ふゆる。物の君少の海へ
 願を改めて。口喚と。その功を勞ひ。彼人々も面を興えん。山家のふあり。あれは
 猛惡獸の荒らる。是のふ。亦自。律あるとも。彼人等も懐
 べ。よ。あ。助と。ある。筋あり。この美と。や。入。と。お。け。環八郎。列も
 あり。約九郎。獵と。白眼。ひ。思。人。們。彼。等。を。稱。して。筋。あり。彼。等。が。列。と
 侍。ん。や。公。の。法。と。執。る。お。縣。相。公。の。あ。も。心。を。と。結。り。が。ま。り。た。その。口。役。今。こ。の。ま。ま
 其。分。の。差。ち。と。居。丈。高。小。岡。で。つ。ひ。ま。に。村。長。と。の。威。勢。小。せ。ま。て。列。と。返。此。の。の
 る。頭。と。抱。て。枯。鹿。と。獵。夫。等。と。俱。小。退。さ。り。か。く。て。重。さ。る。獵。夫。等。四。五。人。村。長

兩三人うち連。西條高資が家へ来り。偕も昨夜の。辛。ト。果。る。惡。獸。と。小
 退。れ。り。の。筋。び。き。り。小。あり。と。和。子。始。め。兩。個。の。衆。も。さ。り。分。れ。の。ひ。ぬ。ん。
 夫。小。執。る。始。め。の。ひ。つ。り。如。く。お。縣。より。数。妻。の。賞。法。と。揚。り。あ。半。の。奉。ら。ん。積
 る。り。小。今。朝。小。至。ま。と。心。ひ。ま。と。錢。五。貫。文。と。の。然。り。少。と。論。ず。べ。さ。り。小
 あ。わ。ね。る。難。と。請。取。て。あ。し。と。二。三。夜。の。山。將。少。酒。食。の。料。と。容。易。に。獵。夫。も。多。く
 射。放。し。て。功。の。ある。とも。貴。い。なり。の。の。五。貫。の。賞。法。で。の。徳。立。文。小。ご。も。あ。さ。ね。後。
 況。て。の。家。へ。の。半。と。進。ら。す。時。の。山。稼。の。の。の。難。ま。る。の。の。と。の。お。縣。より。別。段。小。褒
 賞。の。こと。と。さ。ま。め。と。更。小。使。入。る。た。の。の。箇。様。と。小。呵。ら。ま。て。二。つ。も。出。び。退。出。る。
 あり。あ。ま。ご。も。這。田。の。功。へ。全。く。之。個。の。英。雄。が。勤。ある。と。さ。と。食。て。始。め。の。約。あ。差。左。ふ
 べ。さ。少。の。け。ま。ご。も。の。半。二。貫。五。百。と。あ。り。す。請。納。て。よ。と。差。出。せ。の。高。資。頭。と。左。右
 ら。ち。振。り。の。小。の。始。め。若。干。の。賞。法。賜。り。ん。の。觸。あ。ま。の。半。と。分。ち。て。共。え。ん。と。さ。ま。り

